

友朋会理念 『患者さんのために』



平成28年
10月15日(土)
秋まつり/バルーンリリース

contents

- 1~2 DPAT活動報告
- 3 西日本芸術療法学会参加報告
- 4 地域連携室通信/スポーツ整形外来の紹介
- 5 日精看「こころの日」/ふれあい看護
- 6 振り込め詐欺防止講習会/夏の交通安全県民運動
- 7 理念・診療科の紹介及び診療担当医師一覧表

活動報告 佐賀県DPAT 4班

活動期間…平成28年5月28日(土)～5月31日(火)

構成員……富松眞之(医師)、
石橋賢良(看護師)、
宮島賢介(精神保健福祉士)、
高見絵里香(臨床心理士)

活動地域…熊本県御船町、嘉島町

宿泊地……八代市

調整本部でのミーティング▶
(壁に情報が集約されています)



【状況】佐賀県DPATは発災からすぐに1班が拠点本部で活動し、3班が4月25日で一旦活動中止。当4班が5月28日から活動再開。群馬県DPATから引継ぎ、御船町、嘉島町を担当。終了後は鹿児島県DPATへ引き継ぐ。同時に京都DPAT(大津町)、東京DPAT(菊池市、菊陽町、合志市)から情報をいただき、佐賀県DPAT5班に引き継ぐという変則的な任務であった。5月時点でDPAT26隊であったのが、6月からは九州7隊へ集約する過渡期であった。

【行動日程】

◎H28年5月28日(土)

午前／調整本部にて活動の説明と引き継ぎ、嘉島町の避難所の町民体育館を巡回。嘉島町町長と面談し、被災者支援者のメンタルヘルスについての講話を依頼された。

午後／御船町へ移動し、警察が介入したケースの相談。その後御船町の3カ所の避難所巡回。避難所集約や仮設住宅への不安や不満が多く聞かれ、職員の疲弊も見られた。御船町の夕方ミーティング。

◎H28年5月29日(日)

午前／嘉島町保健センターにてミーティング参加。県から御船町役場職員のメンタルヘルスの講話の依頼あり。嘉島町民体育館の避難所の巡回。調整本部にて講話の資料の調達と打ち合わせ。

午後／御船町保健センターで保健師と情報交換(ケースと職員の精神状態について)遠方の避難所(七滝中央小、木倉小、小坂小)巡回。御船町保健センターでミーティング。

◎H28年5月30日(月)

午前／御船町ミーティング参加。ケース検討。避難所巡回。御船町総務係長との面会。職員の疲弊のため、メンタルヘルス講義と個人面接の必要性を説明。話し合いの結果、講義の承諾を得て次の鹿児島DPATの班で行うことで調整。

午後／東京DPATと京都DPATとの引き継ぎを菊池保健所にて行う。菊池市役所で引き継ぎの挨拶。大津市子ども健診センターにてミーティング参加。熊本県精神保健福祉センターDPAT調整本部にて九州合同会議に出席。福岡DPATと本田技研工業体育館避難所への巡回の件で打ち合わせ。

◎H28年5月31日(月)

嘉島町役場職員へのメンタルヘルス講義を午前午後2班に分けて実施。それぞれ30名ほど参加。合間に、保健師と認知症疑い女性ケースの自宅訪問。周囲の住宅は断層上にあり、かなり全壊の住宅が多く、ケースの自宅も入れない状態であった。調整本部にて鹿児島DPATへの申し送り資料作成。熊本出発し、肥前精神医療センターにて佐賀DPAT5班へ申し送り。



▲御船町保健センターでの合同ミーティング
(宮城、福岡、西宮などのチーム)



▲嘉島町役場職員へのメンタルヘルス講義1
(Drより急性ストレス反応の説明)



▲東京、京都DPATとの引継ぎミーティング

《その他の熊本被災地支援》

活動期間	氏名	職種	活動地域
6月6日～6月8日	正司 吏臣	医療ソーシャルワーカー	益城町総合運動公園
6月18日～6月25日	前田 和彦	事務	菊池郡大津町他
6月24日～6月26日	大川内智美	医療ソーシャルワーカー	益城町総合運動公園
7月11日～7月15日	佐藤公美子	臨床心理士	熊本市内中学校
7月17日	クリニック職員	介護福祉士 他	益城町 益城病院
8月29日～9月2日	眞木 理	臨床心理士	熊本市内小中学校

～感想～

当初は「いったい何をどうすればいいのか」と不安だらけでしたが、他の県から来た看護師や保健師、理学療法士などのグループがてきぱきと活動している姿を見て奮起させられました。避難所の被災者は自宅に帰り、少なくともはなっていました。避難所の集約の不安や、もともとの生活困窮者が残っている現状、食事の不满、ネグレクトされている子供など、現場でしか遭遇できない状況や被災者の生の声を聴くことができました。また、この時期は支援者(役所の方々)の疲弊がピークであり、支援者支援のメンタルヘルス講義をやる機会を持つことができました。また、DPATシステムは問題点(被災病院への支援の不十分さ、情報の共有と伝達の不十分さ)がありながらも、他県の前DPATが行った仕事との継続性を感じながら次のDPATに橋渡しを行なったことも貴重な経験となりました。今回DPATに参加して、被災者に対しての精神科的援助の在り方、自分たち自身の日々の災害への備えなど多くを学ぶことができました。

医師 富松眞之

今回の派遣では、主に御船町と嘉島町の避難所を巡回訪問させて頂きましたが、発災から約一か月半が経過している時期であり、集団生活における各種のストレスや行政に対する不満等を訴えられる方が多く、そういう方達に対して、ただ傾聴するぐらいしかできない自分に微力さを感じたのが、正直なところです。また、避難者はもちろんですが、それに対応している保健師等行政職員の疲弊も強うかがえ、支援者の支援も重要であることを再認識しました。

看護師 石橋賢良

一度中断した後、佐賀DPATとして、第2クール目の第1班としての4日間の派遣でしたが、避難所も集約が行われている状況で、被災行政地区で罹災証明の手続きに取り掛かりが行われており、被災から自立支援に向かう流れの中での活動でした。

その中で、個別支援等に加えて、メンタルヘルスケアの支援者支援を要す状況でした。

避難所をマネジメントされている地元の保健師さんから、罹災証明の手続きが難航している状況で、不休で活動されている行政マンの疲弊状況が強烈でした。

具体例として、避難所の保健師さんからのせつな要望を通じて、富松隊長、石橋主任と町長との交渉が出来る状況となり、活動期間中に行政マンのメンタルヘルスケアに繋がった嘉島町の活動が特に印象的でした。

精神保健福祉士 宮島賢介

活動の中で常に感じていたことは、「私たちにできることは何か」でした。避難所の縮小や九州外のDPATが撤退していく過渡期だったこと、慣れない作業や活動で臨機応変な対応が求められ、目の前のことをこなすのに精一杯でした。富松副院長のリーダーシップや他隊員のサポートがなければ、やり通せなかったと思います。チームワークの大切さも感じる事ができました。また、支援者支援でメンタルヘルスの講義(リラクゼーション)もさせて頂き、とても貴重な体験となりました。

臨床心理科 高見絵里香

西日本芸術療法学会参加報告

6月19日(日)にアクロス福岡にて第45回西日本芸術療法学会が開催されました。「西日本芸術療法学会」は、昭和47年4月15日に当院の創設理事長である中川保孝と当時の国立肥前療養所所長であった向井彬先生が世話人会を設立し、九州地区の芸術療法に関する研究発表会を開き、臨床面での研究法や基本的な問題を取り上げて話し合っていきたいという思いから発足した学会です。絵画、音楽、陶芸、心理劇、人形劇、生花、園芸などを含む広い分野の研究発表が現在まで行なわれてきており、今回も「芸術療法と風土」という大会テーマで研究発表、指定演題、基調講演、討論会が行われました。

基調講演では日本芸術療法学会理事の富澤先生により「風土」とはどのようなものかということと和辻哲郎の著書『風土』を用いて説明しながら、芸術療法との接点についてのお話がありました。また、討論会においては日本の縁側文化と芸術療法との接点などについて意見や考えが述べられていました。研究発表では、当院から園芸療法についての発表もあり、自閉的に過ごされていた患者さんが植物を育てていくことで生き生きとした生活を営めるようになっていったことについての報告がありました。今回の学会では、多角的な視点で芸術療法を考える機会となり、とても充実した一日となりました。最後に、、、

「風土」とはその地の、気候・気象・地味・地形・景観の総称であると和辻は位置づけています。また、西日本芸術療法学会会長の高江洲先生は著書『生きられる癒しの風景』の中で「風土」について、「人間の存在と物の存在は重なり合い、関与し合うものである。風土とはこの重なり合いの中で創出されるものである。《ある具体的なもの》でもあり、《作り出される、まだ見えない何か》でもある。」と述べています。つまり、物(環境)と人間の関係性の中でできる何かということが言え、これは、物を介して何かを創出する芸術療法との関連を連想させてくれるようで、一見すると「風土と芸術療法」に関係性があるのか疑問に思いましたが、意外とそうでもないのかなと感じつつ、何事にも柔軟な心と疑問に思いう気持ちと探究心は必要だなと思いました。

作業療法科 阿部数也



第1回～第5回学会誌



第10回～第15回学会誌



アクロス福岡

第1回から第10回までは「九州芸術療法研究会」、第11回大会より「西日本芸術療法学会」に学会名が変更されました。

地域連携室通信

日増しに秋の深まりを感じる季節となりましたが、いかがお過ごしでしょうか。今回は成年後見制度についてご紹介したいと思います。

成年後見制度は精神上的障害（知的障害、精神障害、認知症など）により判断能力が十分でない方が不利益を被らないように 家庭裁判所に申立てをして、その方を援助してくれる人を付けてもらう制度です。

たとえば、一人暮らしの老人が悪質な訪問販売員に騙されて高額な商品を買わされてしまうなどといったことを最近よく耳にしますが、こういった場合も成年後見制度を上手に利用することによって被害を防ぐことができる場合があります。他にも財産管理を十分に出来ない場合も役に立つと思います。

また、成年後見制度は精神上的障害により判断能力が十分でない方の保護を図りつつ自己決定権の尊重、残存能力の活用、ノーマライゼーション（障害のある人も家庭や地域で通常の生活をする事ができるような社会を作るという理念）の理念をその趣旨としています。

制度自体をもう少し詳しく知りたい方は精神科地域連携室かお近くのソーシャルワーカーにお尋ね下さい。



スポーツ整形外来 始まりました!!

7月よりスポーツ障害に特化した整形外来がスタートしました。診療日は第一土曜日（AM）で、診察は角田憲治（つのだけんじ）先生（さかえまち整形外科 院長）、にお越し頂けることになり、今まで取り組んだことのない領域の診療を提供出来るようになりました。

自らスポーツに取り組まれながら障害（疼痛・違和感など）を抱えている方、スポーツ障害に悩まれている身内や知り合いなどいらっしゃいませんか？遠くまで受診に行かずとも当院で受診が可能ですので是非ご紹介下さい。

スポーツを末永く楽しみながら続けるため、まずはご相談（相談先：内科外来）下さい。



つのだ けんじ
角田 憲治先生

◎日本体育協会公認スポーツドクター
◎日本手外科学会認定専門医
◎日本整形外科学会認定スポーツ医

『こころの日』に参加して

平成28年7月2日(土)にフレスポ鳥栖にて、日本精神科看護協会佐賀県支部主催による『こころの日』イベントが開催され、アロマセラピーインストラクターとしてハンドマッサージを提供させていただきました。当日は、精神科認定看護師、精神保健福祉士、保健師によるこころの健康相談、骨密度測定、アルコール濃度測定や記念グッズの配布も行われました。

「手のひらのマッサージは初めてだけど、とても気持ちがいい。」「良い香りに和みますね。」という参加者の声に、私自身心が温まりました。皆様のこころと身体をケアできる、癒すことができる医療人でありたいと、改めて感じた1日でした。

報告者：臨床検査科 中村志保美



日本精神科看護協会では精神保健法施行の日(昭和63年7月1日)にちなんで、7月1日を『こころの日』とし、精神科の看護の知識と技術を市民のこころの健康の保持増進に役立つように社会に貢献していきます。



平成28年度 ふれあい看護体験報告



平成28年7月21日(木)ふれあい看護体験を実施しました。看護師を目指す高校生8名が参加され、施設見学や説明、指導に対して真剣に取り組む姿勢が伺えました。看護体験では、高齢者疑似体験セットを使っでの体験、血圧測定、シュミレーターを使っでの採血や注射、入院患者さんへの足浴を体験していただきました。

実際に白衣を着用しての看護体験であり、「看護師になりたいという気持ちがますます強くなりました。」との意見も聞かれ、実際の看護の場面を目にすることや、器具類に触れることで多くの学びや「患者さんにありがとう、と何度も言って頂いた事がとても嬉しかった。」と援助をする喜びを感じていただけたようです。

今回実施したふれあい看護体験を通して、病院の役割や看護師の業務、患者さんと触れ合う事の楽しさを体験し、看護師に対する関心をさらに高めてもらえたのではないかと思います。

報告者：東3病棟 田邊法子



振り込め詐欺防止講習会

平成28年6月24日(金)大ホールにおいて、鹿島警察署と親和銀行嬉野支店行員による「振り込め詐欺講習会」が2部構成で行われました。

当日は、リカバリーセンターほほ笑みとゆうほう会通所リハビリ通所者のみなさん約40名が参加され、熱心に受講されました。

第一部では、鹿島警察署生活安全課の担当刑事より、詐欺の手口や金融犯罪から財産を守るポイントなど、実際の犯罪事例をもとにお話していただきました。

第2部では、その後に親和銀行嬉野支店行員の皆様による「振り込め詐欺寸劇」が行われました。当院の職員も犯人役で参加し、投資詐欺や還付金詐欺など実際に起きている詐欺の手口をわかりやすく、時に笑いも誘いながら演技されていました。

参加者の方々からは劇を見てわかりやすかった、知らない人からの電話には用心しないといけないなどの感想が聞かれ、受講者のみなさんの防犯意識が高まった会となりました。



【講演会】



【振り込め詐欺寸劇】

夏の交通安全県民運動

7月11日(月)~7月20日(水)の10日間(平日7日間)にあわせて当会でも交通安全啓蒙活動(立ち番)を実施しました。

交通委員会を中心に朝の通勤、通学時(07:30~08:10)に病院入口の他、近隣の交差点による啓蒙活動(立ち番)を行い、夕方の退勤時(17:00~17:40)には病院内の交差点や横断歩道にて活動を行いました。期間中は雨の為に中止した日もありましたが当会職員や地域の交通安全・安全運転意識の向上を図ることを目的とした活動ができたと思います。

今後も交通安全・安全運転を心がけましょう。

【活動時間】①07:30~08:10(7/11、7/12、7/13は雨のため中止)
②17:00~17:40

【活動場所】①病院入口・かりん薬局前交差点・西肥駐車場入口・孝心の里前交差点
国道34号線:神泉閣交差点2名(課長会議)
県道鷹巣・セブンイレブン交差点3名:(ヤングドライバーズクラブ)
②管理課交差点・新病棟前横断歩道
病院入口・新病棟前横断歩道(ヤングドライバーズクラブ)



友朋会理念 『患者さんのために』

基本方針

- 1 患者さん一人ひとりの立場になって、提供すべき医療を考え、実践する
- 2 在宅での生活を目指した医療・看護・介護・リハビリ・福祉を実践する
- 3 創設時から継続されている退院支援・生活支援・就労支援の更なる充実のために地域包括ケアシステム・地域医療構想の視点を加える
- 4 芸術療法的な治療空間・アメニティを重視し、芸術療法を治療技法として高める
- 5 医療安全対策・感染予防対策・精神科医療事故防止・防災対策・防火対策など総合安全対策体制を確立する
- 6 地域医療機関との連携や役割分担による医療を実践する
- 7 地域において認知症疾患医療センターを軸にリーダーシップを発揮する
- 8 児童思春期精神医療を実践し、地域の子どものための健全な成長に寄与する
- 9 安全で質の高いチーム医療を実践し、地域の医療・福祉の向上に貢献する
- 10 医療従事者として自己研鑽に精励する

職業倫理に基づく行動指針

- 1 患者さんの自己決定権を尊重する
- 2 患者さんが自己の情報を知る権利を保障する
- 3 患者さんがセカンドオピニオンを求める権利を保障する
- 4 患者さんに安全で質の高い医療を提供することに最善を尽くす
- 5 患者さんに医療的な説明を十分に行う
- 6 患者さんに治療に関する同意を確実に得る
- 7 患者さんの「基本的人権」を保障する
- 8 患者さんの尊厳を保つ
- 9 患者さんの終末期医療について理解を深め、その実践に努力する
- 10 患者さんの個人情報を守る

診療科の紹介及び診療担当医師一覧表

*診療時間

- ◎月曜～金曜
- ◎午前の部 / 8:30～12:30 (第1土曜 8:30～12:30)
- ◎午後の部 / 13:30～17:00
- ※ただし、水曜、金曜の眼科外来は10:00より開始

*休診日

- ◎第2・3・4・5土曜、日曜、祭日
- 年末2日、年始3日間

*予約診療

- ◎待ち時間短縮のため、予約診療とさせていただきます。

*眼科の診療時間

- ◎月曜日 午後のみ13:00～17:00
- ◎水・金曜日 午前10:00～12:30 午後13:30～17:00

診療科		月	火	水	木	金	土
精神科	新患	精神科一般	前田直子	吉本静志 中山 享		奥 栄作 前田直子 (第2・4)	奥 栄作 富松真之
		もの忘れ	吉本静志 中山 享	松尾勝久 渡邊 至	田中邦宏 渡邊 至 光吉幸次	田中邦宏 松尾勝久	松尾勝久
	再来	富松真之 松尾勝久	奥 栄作 田中邦宏 前田直子	吉本静志 中山 享	中山 享	三根禎行 菅高一博 渡邊 至	第一土曜 予約者のみ
	思春期	富松真之 三根禎行 菅高一博 前田直子					
内科		口石櫻子	竹下吉明	岡本純明	林原歳久(午前) 口石櫻子(午後)	榎真佐史	第一土曜 非常勤医師
泌尿器科	午前	倉富一成	江原 孝	倉富一成	江原 孝	倉富一成	第一土曜 予約者のみ
	午後	事前連絡	事前連絡	事前連絡	事前連絡	事前連絡	
眼科		崎戸晶子 (13時～)		崎戸晶子 (10時～)		崎戸晶子 (10時～)	



医療法人財団 友朋会

〒843-0301
佐賀県嬉野市嬉野町大字下宿乙1919
電話:0954-43-0157
FAX:0954-43-3440
E-mail: info@yuhokai.com
URL: http://www.yuhokai.com/



- 嬉野温泉病院 0954-43-0157
- 認知症疾患医療センター 0954-43-0003
- リハビリセンター「ほほ笑み」 0954-43-0194
- ゆうほう会 通所リハビリ 0954-43-0233
- 介護老人保健施設 朋寿苑 0954-42-2900
- 友朋会介護サービスセンター 0954-20-2531
- グループホーム 千寿荘 0954-43-0157
- 就労支援センター「希望」 0954-43-0249
- 地域連携室 0954-43-0255
- 小規模多機能ホーム「孝心の里」 0954-43-7550
- ものわすれメンタルクリニック 092-534-5151
〒815-0082 福岡市南区大橋2-19-20ピュアドームエレガント平尾3・4F